

洗練されたチームワークで激戦を勝ち抜く

リスポ 快進撃の立役者！頭角現すニューホープ

創部史上初 1部昇格



立教スポーツ
<https://www.rikkyo-sports.com/>
 11月30日
 木曜日
 2023年
 第250号

数ある快挙
 今年度、数々の偉業を達成した立大。春には公式戦で初めて早大を撃破する。難敵を相手に見事な逆転勝利を収めた。1、2年生のみで争われる新人インカレでも8強入りを達成。若い戦力も健闘し、選手層の厚さと確かな実力が証明された。

影の貢献者
 春から新たに導入されたアナリスト制度。立大のプレススタイルを熟知した4年生が担当している。練習や試合動画の分析に選手以外の視点加わり、攻撃が多様に。自分たちのプレの傾向を客観視することも、勝利を後押しする要因となった。

対戦相手	結果	得点	リバウンド	アシスト	スティール	ブロック	失点
早稲田大学	勝利	75	32	18	5	3	18
立教大学	勝利	82	35	20	6	4	22
同志社大学	勝利	78	30	15	4	2	20
明治大学	勝利	85	38	22	7	5	25
慶応義塾大学	勝利	80	35	18	5	3	20
国学院大学	勝利	72	28	12	3	2	18
法政大学	勝利	70	25	10	2	1	15
清泉女子大学	勝利	68	22	8	1	1	12
立教大学	勝利	75	28	12	3	2	18

女子バスケットボール部
 第73回
 関東大学女子バスケットボールリーグ戦
 9月16日～11月4日
 国立代々木競技場第二体育館など

未踏の地へと進み出す！

戦の歴史を振り返る。立大の歴史は、バスケットボール部が活躍の場を築いてきた。インカレや早大戦での活躍が、チームの成長を促した。各々の役割を十分に発揮できる環境を整え、下級生がプレイングタイムを増やすことに努めた。チームの成長は、選手一人ひとりの成長に支えられている。

才覚の結集
 主将・山本が追求したのは、真のチームワーク。各々が自分の役割をしっかりと果たし、チームの勝利に貢献する。インカレでは、ベンチでも積極的な声援を出し、チームの士気を高めた。対戦相手は、全員がより高いレベルで戦った。勝利を収めたのは、チーム全体の力が発揮された結果だった。

初の大舞台に挑んだ。立大の歴史を振り返る。立大の歴史は、バスケットボール部が活躍の場を築いてきた。インカレや早大戦での活躍が、チームの成長を促した。各々の役割を十分に発揮できる環境を整え、下級生がプレイングタイムを増やすことに努めた。チームの成長は、選手一人ひとりの成長に支えられている。

希代の栄進
 歴史の勝利を告げる。立大の歴史は、バスケットボール部が活躍の場を築いてきた。インカレや早大戦での活躍が、チームの成長を促した。各々の役割を十分に発揮できる環境を整え、下級生がプレイングタイムを増やすことに努めた。チームの成長は、選手一人ひとりの成長に支えられている。

新入部員募集中!
 言葉のアスリートを目指せ

ラスト50秒の決戦
 00:42 00:19 00:07
 昇格決定!

これまでの歴史
 2018 2部A昇格
 2019 2部A6位
 2020 2部A4位
 2021 2部A3位
 2022 2部A2位
 2023 1部昇格

四丁目

YouTube
 特別コラボ動画
 水戸野郎と水戸アスリート

祝1部昇格

立教大学体育会女子バスケットボール部OG会

地球と暮らしを考える。

JKホールディングス株式会社
 人事採用 Instagram

Follow Me!

社員紹介 感謝のコツ 最新の就業情報

詳しい採用情報はこちらから!

WEBSITE RECRUIT SITE

女子バスケットボール部 2部昇格 3部昇格 4部昇格 5部昇格 6部昇格 7部昇格 8部昇格 9部昇格 10部昇格 11部昇格 12部昇格 13部昇格 14部昇格 15部昇格 16部昇格 17部昇格 18部昇格 19部昇格 20部昇格 21部昇格 22部昇格 23部昇格 24部昇格 25部昇格 26部昇格 27部昇格 28部昇格 29部昇格 30部昇格 31部昇格 32部昇格 33部昇格 34部昇格 35部昇格 36部昇格 37部昇格 38部昇格 39部昇格 40部昇格 41部昇格 42部昇格 43部昇格 44部昇格 45部昇格 46部昇格 47部昇格 48部昇格 49部昇格 50部昇格 51部昇格 52部昇格 53部昇格 54部昇格 55部昇格 56部昇格 57部昇格 58部昇格 59部昇格 60部昇格 61部昇格 62部昇格 63部昇格 64部昇格 65部昇格 66部昇格 67部昇格 68部昇格 69部昇格 70部昇格 71部昇格 72部昇格 73部昇格 74部昇格 75部昇格 76部昇格 77部昇格 78部昇格 79部昇格 80部昇格 81部昇格 82部昇格 83部昇格 84部昇格 85部昇格 86部昇格 87部昇格 88部昇格 89部昇格 90部昇格 91部昇格 92部昇格 93部昇格 94部昇格 95部昇格 96部昇格 97部昇格 98部昇格 99部昇格 100部昇格

応援を背に窮地からの大飛躍！

順位	選手	記録(分)
1	立大	17:04.01
2	京大	17:18.78
3	国学院大	17:31.01
4	法大	17:41.82
5	早稲田大	17:56.12
6	福井大	18:09.81
7	神戸大	18:17.93
8	日大	18:59.53



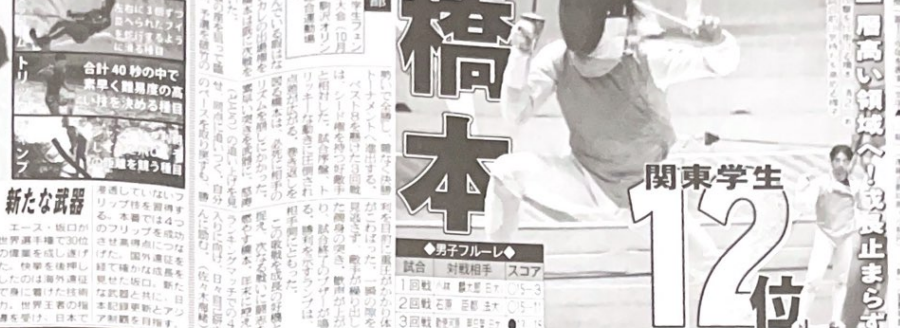
全日本インカレ 5連覇

歴史を塗り替える偉業達成

「死力を尽くして最高のレースができた」

立大男子フォアは、第50回全日本インカレ男子フォアで5連覇を達成した。決勝では、京大を破り、500m、1000m、1500m、2000mの4レースとも首位を独占し、総合優勝を果たした。

胆力が導いた！ 誓への挑戦



橋本 12位

男子フルレーン

◆対戦相手 スコア

1回戦 立大 京大 17:04.01 vs 17:18.78

2回戦 立大 早稲田大 17:04.01 vs 17:56.12

3回戦 立大 福井大 17:04.01 vs 18:09.81

堅忍不拔の想いで栄光に輝く！



インカレ 男子フォア

競り合いに勝利し喜悦の日本一！

立大男子フォアは、第50回全日本インカレ男子フォアで5連覇を達成した。決勝では、京大を破り、500m、1000m、1500m、2000mの4レースとも首位を独占し、総合優勝を果たした。

12年ぶりに立大新記録樹立！



上原

大舞台上で底力を示す

女子100mバタフライ決勝

上原なみは、女子100mバタフライ決勝で、京大を破り、58秒96の好成績で優勝した。これは立大の12年ぶりの新記録樹立となった。

ボート部 一念発起

第50回全日本大学ローイング選手権大会

ボート部は、第50回全日本大学ローイング選手権大会で、男子フォアで5連覇を達成した。これはボート部の一大功績である。

全身全霊

ボート部は、第50回全日本大学ローイング選手権大会で、男子フォアで5連覇を達成した。これはボート部の一大功績である。

表彰・選出

表彰式では、優勝した立大男子フォアと女子100mバタフライの優勝者上原なみが表彰された。また、大会関係者の皆様にも感謝状が贈られた。

熊谷 光洋 2023年度 賞状長

頑張る若者を応援します

株式会社 すくらむとらひ

フレンドリーなインストラクターと

東京都内最大級の広いコースでのびのび実習!

フレンドリースクール 北としま

立教大学池袋正門より無料送迎あり

祝 第68回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会

男子総合優勝(5連覇)・女子総合2位



大会実施に関しまして、大会関係者の皆様へ感謝申し上げます。また日頃より応援いただいております立教大学の皆様、体育会の皆様、OBOGの皆様、そしてご父兄の皆様のご協力、ご声援、誠にありがとうございました。

体育会モーターボート・水上スキー部 OB・OG 会長長三輪久 OB・OG一同

12年ぶりに立大新記録樹立!

大舞台で底力を示す

上原

力強い泳ぎを見せる上原

順位	選手名(所属チーム)	タイム
(1)	西澤七海(神奈川大)	57秒92
(2)	大橋千尋(イトマン 四国電産)	58秒61
(3)	山本花音(イトマン 四国電産)	58秒63
(4)	中野実夢(ダッシュ 新潟)	58秒67
(5)	上原みなみ(立大)	58秒92
(6)	藤本とみか(アインズ 岡山)	58秒99

上原みなみ

所属校: 立大
学年: 3年
得意種別: フライドボート、メロンソーダ
得意の選手: 野井悠輔
座右の戒: とにかく寝ること!
得意種別: 水泳全般
得意種別: 自由形、バタフライ

名前	山田雄恒
やまだゆうこう	お
学部学年	社会学部3年
出身校	埼玉・立教新座高
高校時代の部活	ボート部

日本短水路 B決勝

5位

女子100mバタフライ

水泳部

第65回日本選手権(25m)水泳競技大会(10月21日~22日 東京アクアティクスセンター)

12年ぶりに立大記録を塗り替えた上原。自己ベスト更新を果たすも、目標達成とはならなかった。「もっと上に行けた」。目指したタイムは58秒5。その表情に悔しさをにじませていた。

コンディションが上がらないまま挑んだ今大会。夏から自分の泳ぎができず、苦悩の日々を送っていた。プレッシャーがかかる中、コーチの言葉が上原の闘志に火をともし、「焦るのは競技と本気で向き合っているから。自信を持ってやれることをわろう」。激励を受け注力したのは、自らの試合映像の見直し。分析の末、自身の武器である体格を生かしたダイナミックな泳ぎを再確認する。苦しい中でも、意識の変化が彼女に本来の姿を取り戻させた。

迎えたレース当日。周囲の期待を背負い、スタート台に立った。一斉に飛び込む選手たち。力強い泳ぎで前に出ると序盤から大きくリードする。苦手とする後半も粘りを見せフィニッシュ。電光掲示板には、自身のベストタイムが映る。結果は見事B決勝進出。競技に対するひたむきな姿勢が実った瞬間だった。

大学集大成となる来季。インカレでの表彰台と記録更新を目標に掲げた。「お世話になった人にメダルをかけてあげたい」。監督やコーチに支えられた3年間。彼らへの感謝を胸に、さらなる成長と活躍を誓う。(佐藤稜真)